

【研究概要】

2016年度当病院では腰部脊柱管狭窄症で腰椎固定術を受けた患者が446件、65歳以上の高齢者が87%であった。クリニカルパスに基づき退院に向け看護展開しているが、約26%の方がクリニカルパスから逸脱している現状がある。手術目的で入院された患者は、日常生活の自立や活動に欠かせない運動機能の低下があり、特定高齢者の要素を含んでいると言える。そこで、術前に介護予防基本チェックリストを用いて特定高齢者を抽出し、介護予防基本チェックリストの因子が退院の転帰にどのような影響を及ぼしているか検討したいと考えた。